

## 11 やりがいを感じて

楷葉ときわ苑 かじやま ま や  
介護福祉士 梶山 茉耶さん(27)

母になったことで意識が強く持てるようになった様子うかがえる梶山茉耶さん。楷葉ときわ苑で介護福祉士として働いている。高校生の頃“将来は人の役に立つ仕事がしたい”と思ったそう。梶山さんのお母さんは介護の仕事をしていて、その話を聞いていたこともあり、あこがれのようなものもあった。



介護福祉士 梶山 茉耶さん

陸上部だった梶山さんは体を動かすことが好き。高校卒業後は、仙台にある体育学部の健康福祉学科に進学。介護を選択し体を動かしながら、お年寄りと接する運動指導などを学んだ。実習では、ユニットケアをしている施設を訪問。座学では学べない現状が学べていい経験が出来たそう。

地元いわき市での就職を希望し、縁あって同施設に入社が決まった。途中、結婚・出産のブランクはあるが入社してもうすぐ5年。梶山さんの仕事は、入居者の介助全般など生活をサポートしている。口腔ケアを担当しており、訪問歯科の先生に指導を受けながら口腔体操を行ったり入居者の口の中の変化をみている。

ある一人の認知症入居者を担当していたころの話。2年くらい担当していて日に日に認知機能が低下していく中、梶山さんのことだけは忘れず「梶山さん梶山さん」と最後の最後まで呼んでくれていたそう。その入居者に「あなたで良かった～」と言われたときは、とても嬉しくなったと当時を振り返り、涙ぐむ場面も。今でも忘れない思い出の言葉だ。

担当しているうちに入居者との“絆”のようなものを感じてくるという梶山さん。相談され

ることも増え、より身近な存在になれているのかなと思えるそう。信頼関係が築け、やりがいを感じている。介護の仕事ならではのやりがいをみつけ、日々大切に接している。

入居者が急変して、梶山さんは悲しむことしかできなかったことがあった。その時、看護師長からかけられた言葉で自分の中での考え方が変わったという。それは、亡くなられた入居者に「お疲れさま～」や「がんばったね」と声かけをしてあげるとのこと。亡くなって悲しむばかりではなく、ちゃんと声かけをしてあげることも大切ということを学んだ。

最近“ままごと”を始めたという2歳半の女の子のママでもある梶山さん。家では子育て奮闘中。仕事で気持ちが落ちたり“逃げたいな～”と思うことがあっても“負けないで頑張ろう”とポジティブ。梶山さんの原動力は家族。「子供が成長していく中で、母が“くよくよ”してはカッコ悪いので」と強くならなくてはという気持ちになれるそう。子育てしながら、忍耐力も身に付いたようだ。

旦那さんや両親の協力を得ながら仕事・育児・家事が頑張れているという梶山さん。“人の役に立ちたい”という思いを強く持ち“入居者だけでなく一緒に働いているスタッフにも寄り添って、アドバイスができるようになりたい”という。他に出来ることはないか、みつけないきたいそうだ。



楷葉町に平成22年8月に開設した介護老人保健施設「楷葉ときわ苑」。開所7ヶ月後、東日本大震災の被害を受け、いわき市へ避難。内郷高坂町で再スタートした。

同施設では、介護保健施設サービス（長期入所）、短期入所療養介護（ショートステイ）、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションの4つのサービスを提供。専門的な人材を揃え「利用者様中心のサービス」を徹底し、利用者や家族、地域が元気になるような支援を実践している。サービス全体に「生活の中で“できること”を増やす」ということに重きをおき、支援をしている。

介護老人保健施設は、心身機能の低下などにより自宅での生活が難しくなった人に対し、医学的管理の下で、専門的な看護や介護、リハビリテーション等を提供し、入居者の自宅への復帰を目指している施設。個人の思いを尊重しながら、その方らしい生活を送ることができるよう多職種で密な連携を図っている。

介護老人保健施設 楷葉ときわ苑  
〒973-8408  
いわき市内郷高坂町四方木田155  
電話 0246-27-1117 FAX 0246-27-7771  
問い合わせ naraha-tokiwaen@tokiwa.or.jp

